

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第9週の発生動向

全数報告の感染症 (9週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核 4例。3類感染症：報告なし。
4類感染症：つつが虫病 1例。5類感染症：急性脳炎 1例、破傷風 1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	延岡	20歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	結核性胸膜炎	症状なし
		日向	30歳代	女	無症状病原体保有者	—
			60歳代	男	無症状病原体保有者	—
4類	つつが虫病	日南	60歳代	女	—	頭痛、発熱、発疹
5類	急性脳炎	宮崎市	10歳代	男	インフルエンザウイルスA	発熱、痙攣、意識障害、多臓器不全
	破傷風	宮崎市	70歳代	男	—	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害

定点把握の対象となる5類感染症

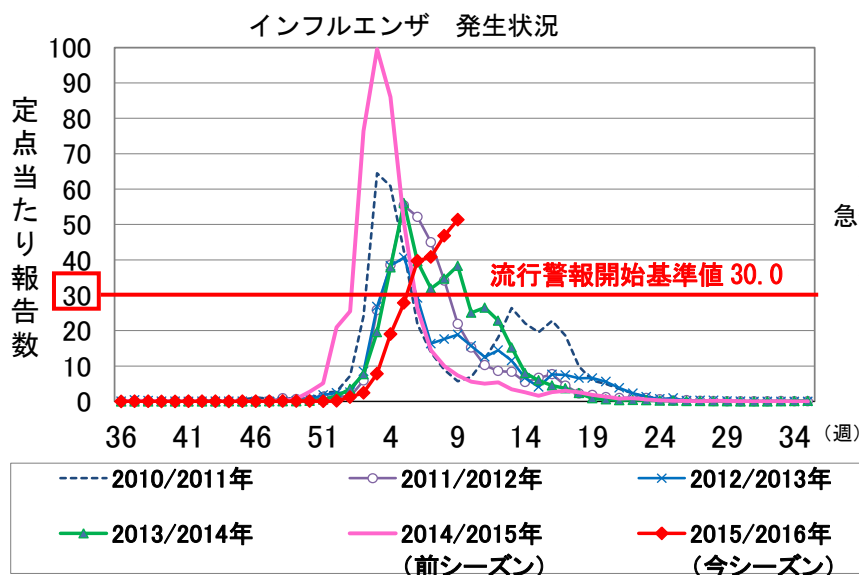
・定点医療機関からの報告総数は3,786人(定点当たり77.3)で、前週比109%とやや増加した。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

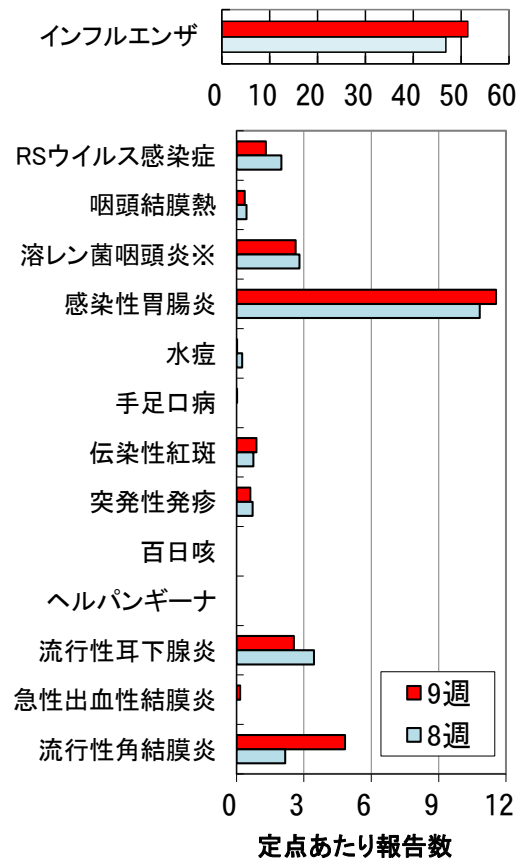
【インフルエンザ】

・報告数は3,030人(51.4)で、前週比110%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(17.7)の約2.9倍であった。延岡(70.9)、中央(64.0)、日向(58.2)保健所からの報告が多く、年齢群別では5歳未満が全体の22%、5-9歳が39%、10-14歳が19%、15-19歳が3%、20-59歳が13%、60歳以上が4%を占めた。詳細後述。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



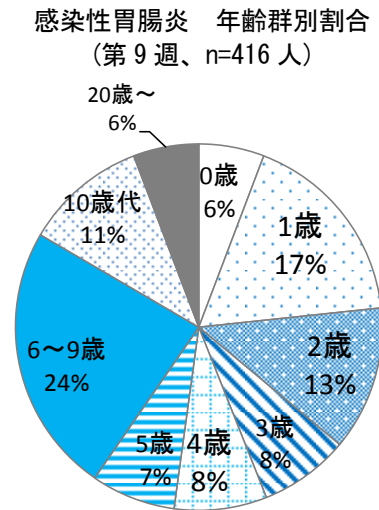
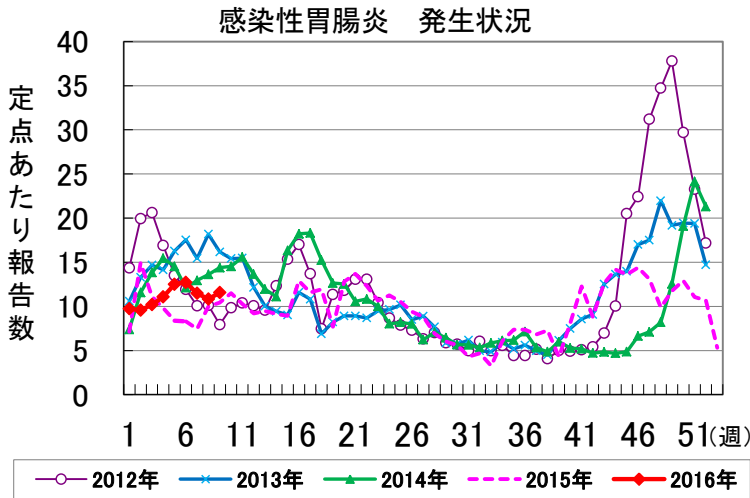
《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

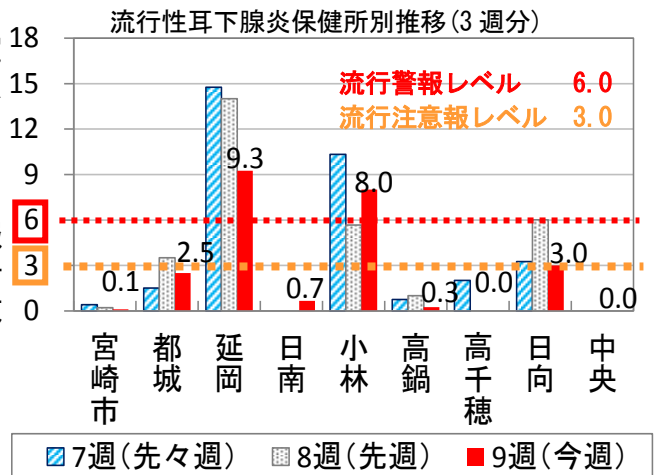
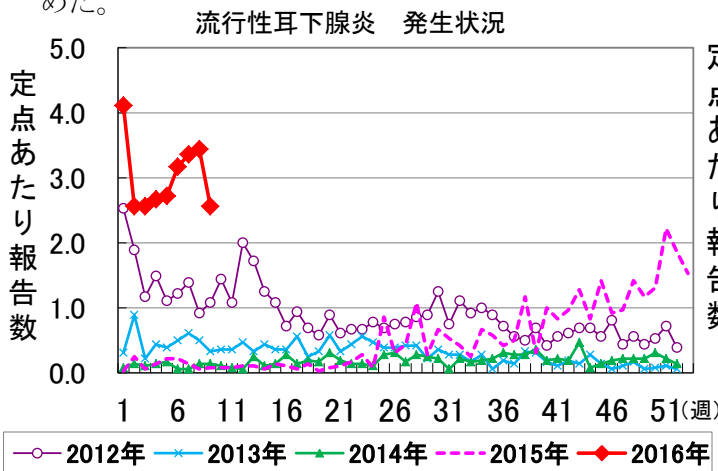
【感染性胃腸炎】

・報告数は416人(11.6)で、前週比107%とやや増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(14.2)の約0.8倍であった。日南(25.0)保健所からの報告が多く、年齢別はグラフに示す。



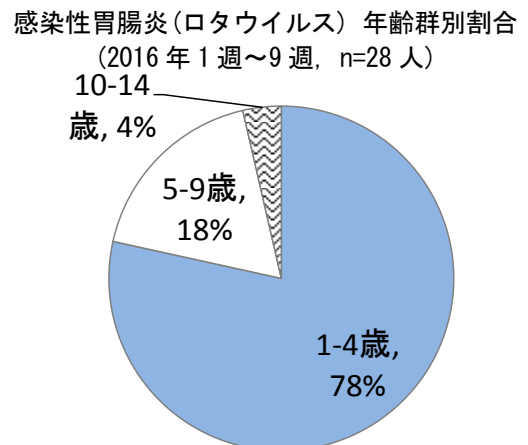
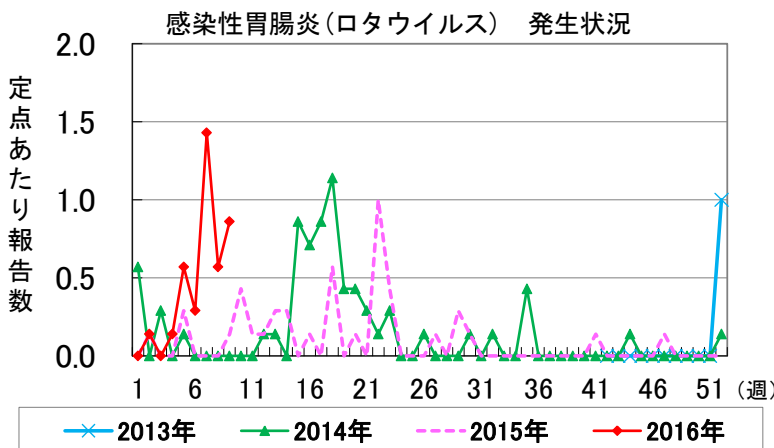
【流行性耳下腺炎】

・報告数は92人(2.6)で、前週比74%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.77)の約3.3倍であった。延岡(9.3)、小林(8.0)保健所からの報告が多く、年齢別では2~6歳が全体の約8割を占めた。



★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：都城保健所から1例報告があった。0~4歳であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：高鍋保健所から5例、日向保健所から1例報告があった。0~4歳が4例、5~9歳が2例で、いずれも病原体の群別は不明であった。



★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(51.4)
都城	インフルエンザ(57.5)
延岡	インフルエンザ(70.9)、流行性耳下腺炎(9.3)
日南	インフルエンザ(41.8)、感染性胃腸炎(25.0)
小林	インフルエンザ(34.2)、流行性耳下腺炎(8.0)
高鍋	インフルエンザ(41.0)
高千穂	インフルエンザ(17.0)、伝染性紅斑(2.0)
日向	インフルエンザ(58.2)、流行性耳下腺炎(3.0)
中央	インフルエンザ(64.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

・インフルエンザ(30.0)

・感染性胃腸炎(20.0)

・流行性耳下腺炎(6.0)

・伝染性紅斑(2.0)

＊流行注意報レベル基準値＊

・インフルエンザ(10.0)

・流行性耳下腺炎(3.0)

🇯🇵 全国 2016 年第 8 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 8 週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	340 例			
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	13 例	
4類感染症	E 型肝炎	6 例	A 型肝炎	5 例	ジカウイルス感染症 1 例
	デング熱	1 例	レジオネラ症	16 例	レプトスピラ症 1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	12 例	ウイルス性肝炎	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 22 例
	急性脳炎	19 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 7 例
	後天性免疫不全症候群	17 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例	侵襲性髄膜炎菌感染症 1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	44 例	水痘 (入院例)	1 例	梅毒 52 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例	風しん 2 例
	麻しん	1 例			

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 97% とほぼ横ばいであった。前週と比較して大きく増加した疾患はなく、減少した主な疾患はRSウイルス感染症と水痘であった。

インフルエンザの報告数は 178,685 人(36.1) で前週比 97% とほぼ横ばいであった。愛知県(54.3)、愛媛県(53.1)、鹿児島県(49.5)からの報告が多く、23 都道府県で前週と比較して増加している。年齢群別では 5 歳未満が 20%、5-9 歳が 35%、10-14 歳が 17%、15-19 歳が 4%、20-59 歳が 19%、60 歳以上が 5% であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 10,140 人(3.2) で前週比 98% とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(2.3) の約 1.4 倍であった。山形県・鳥取県(各 8.0)、宮城県(7.3)からの報告が多く、年齢別では 4~6 歳が全体の約 4 割を占めた。

宮城県感染症週報 [第 18 巻 8 号] の病原体検出情報において、インフルエンザの検出数に誤りがございました。AH1pdm09 型が 3 例、B 型(ビクトリア系統)及び B 型(山形系統)が各 2 例ずつと掲載していましたが、正しくはインフルエンザ AH1pdm09 型が 2 例、B 型(ビクトリア系統)及び B 型(山形系統)が各 1 例ずつです。お詫びして訂正いたします。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第9週(2月29日～3月6日)

疾病名		第8週	第9週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2762	3030	822	575	496	209	171	246	34	349	128
	定点あたり	46.81	51.36	51.38	57.50	70.86	41.80	34.20	41.00	17.00	58.17	64.00
RSウイルス 感染症	報告数	72	47	9	6	13	1	1		1	16	
	定点あたり	2.00	1.31	0.90	1.00	3.25	0.33	0.33	0.00	1.00	4.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	16	13	3	8		1		1			
	定点あたり	0.44	0.36	0.30	1.33	0.00	0.33	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	101	95	27	14	15	15		4		17	3
	定点あたり	2.81	2.64	2.70	2.33	3.75	5.00	0.00	1.00	0.00	4.25	3.00
感染性胃腸炎	報告数	390	416	91	63	34	75	56	46	9	38	4
	定点あたり	10.83	11.56	9.10	10.50	8.50	25.00	18.67	11.50	9.00	9.50	4.00
水痘	報告数	9	1			1						
	定点あたり	0.25	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数		1									1
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	27	32	16	10	2	1	1		2		
	定点あたり	0.75	0.89	1.60	1.67	0.50	0.33	0.33	0.00	2.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	26	22	7	3	2	2		2		3	3
	定点あたり	0.72	0.61	0.70	0.50	0.50	0.67	0.00	0.50	0.00	0.75	3.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	124	92	1	15	37	2	24	1		12	
	定点あたり	3.44	2.56	0.10	2.50	9.25	0.67	8.00	0.25	0.00	3.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.17	0.33	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	29	19	10							
	定点あたり	2.17	4.83	6.33	5.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1	1		1							
	定点あたり	0.14	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	4	6						5		1	
	定点あたり	0.57	0.86	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.00		1.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～9週)

2類感染症	結核	36例(4)			
4類感染症	A型肝炎	2例	つつが虫病	4例(1)	
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例	急性脳炎
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	1例	梅毒
	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	1例(1)	

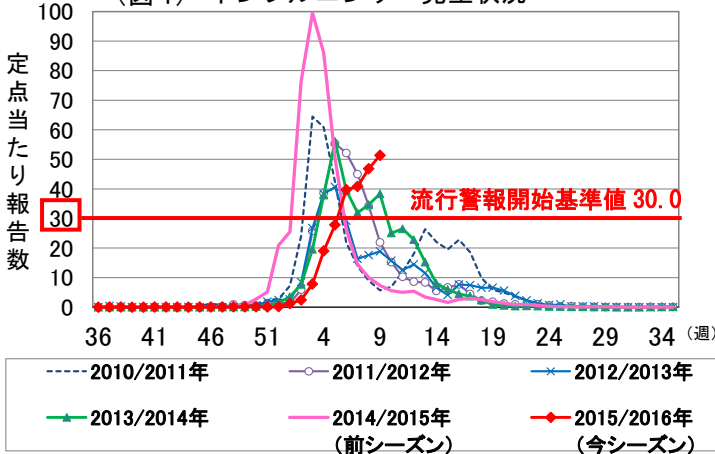
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報 《県内第9週、全国第8週（再掲）》

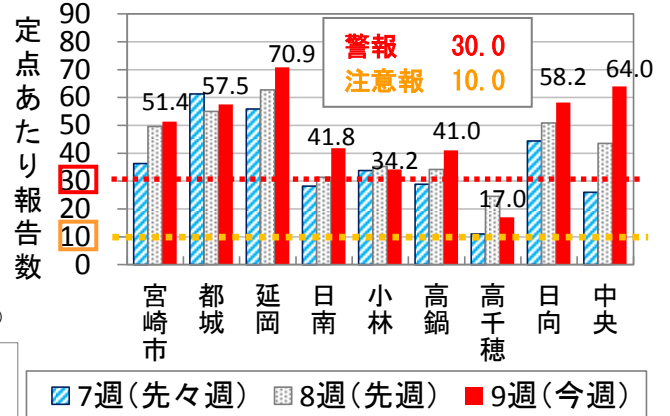
□ 県内第9週インフルエンザ発生動向

2016年2月29日～3月6日までの1週間で3,030人（定点あたり51.4）の報告があった。前週の約1.1倍と増加し、例年同時期の定点あたり平均値*(17.7)の約2.9倍であった（図1）。保健所別は延岡(70.9)、中央(64.0)、日向(58.2)保健所からの報告が多く（図2）、年齢群別では5歳未満が全体の22%、5-9歳が39%、10-14歳が19%、15-19歳が3%、20-59歳が13%、60歳以上が4%を占めた（図3）。

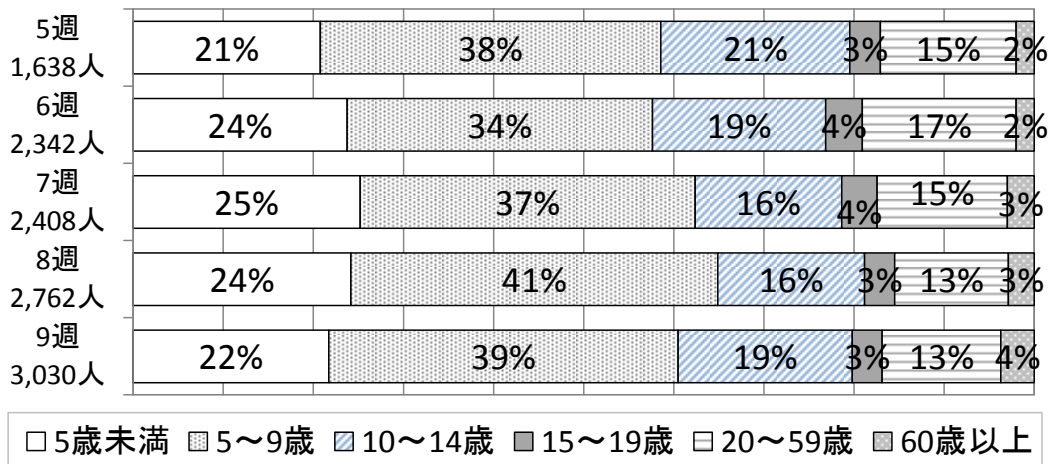
（図1）インフルエンザ 発生状況



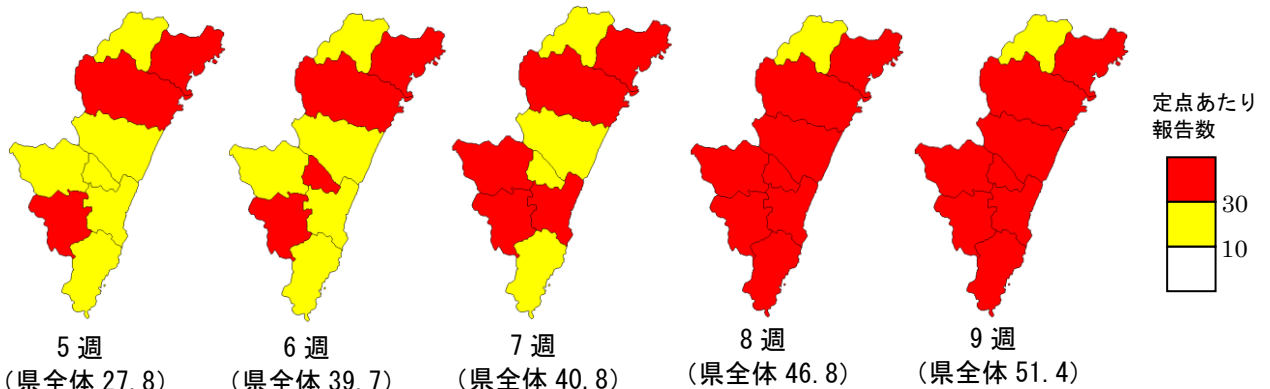
（図2）インフルエンザ保健所別推移（第7～9週）



（図3）年齢群別割合の推移（第5～9週）



保健所別インフルエンザ警報・注意報レベル状況 第5～9週



□ 全国第8週インフルエンザ発生動向

2016年2月22日～2月28日までの1週間で178,685人(36.1)で、前週比97%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加したのは23都道府県で、特に愛知県(54.3)、愛媛県(53.1)、鹿児島県(49.5)からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が20%、5-9歳が35%、10-14歳が17%、15-19歳が4%、20-59歳が19%、60歳以上が5%であった。